

登山道で出会う花

春

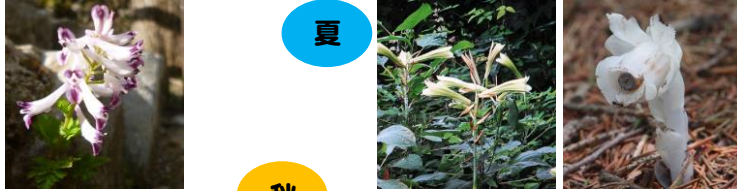


ヨゴレネコノメソウ イチリンソウ ニリンソウ ヒトリシズカ



ヤマウツボ ササバギラン ヒゲネワチガイソウ ギンバイソウ

夏



ムラサキケマン ウバユリ

秋



カシワバハグマ サラシナショウマ ヤマトリカブト ツリフネソウ

御前山の樹木

中腹から山頂にかけて落葉広葉樹林が広がる御前山。春は新緑、秋には黄葉、紅葉が目を楽しませてくれる。奥多摩湖から惣岳山経由で御前山に至る大ブナ尾根コースには、その名の通りブナ、イヌブナが多く、標高 1,000m以上はミズナラ、ツガ、コナラ、クヌギ、シデ類などの自然林が見事。境橋から体験の森を登って御前山に立つコースにはカラマツの樹林帯、春に美しい白い花をつけるシロヤシオや、秋のヒトツバカエデの黄葉も素晴らしい。体験の森の沢沿いコースにはサワグルミ等の溪畔林が広がり、カエデの間では珍しい葉が三枚の小葉からなり、かつて樹皮を煎じて目薬とされたメグスリノキも見られる。

一方、大ダワからのコースと宮ヶ谷戸から湯久保尾根を登る南東側の斜面はいずれも下部はスギやヒノキの人工林だが、上部はブナ、クヌギなどの落葉広葉樹林帯。静かな山歩きが楽しめる。月夜見第二駐車場から小河内峠を越えるコースの南側は人工林になっているが、北側の斜面はツガ、クヌギ、コナラ、シデ類などの自然林が続く。春はアブラチャンの淡黄色、マンサクの鮮黄色の花に始まり、ダンコウバイ、キブシ、フサザクラ、クロモジ、ヤマザクラ、紅紫色のミツバツツジなどが彩りを添える、小河内峠上部はミズナラ、ダケカンバ、尾根にはブナ林が広がって魅力的な風景を見せてくれる。主な樹種を紹介したが、多種多様な御前山の樹木の名や特徴を確かめながら山歩きを楽しんで頂きたい。



ゴンズイ シロヤシオ アブラチャン

野生動物

ニホンカモシカ、ツキノワグマ、ニホンザル・・・御前山から惣岳山付近の山域は、野生動物にとって絶好の生息環境なのだろう。4月～5月初旬にかけてのカタクリの開花期には多くの登山者が訪れるが、それ以外の季節は比較的静かで、山を歩いているとカモシカと対面したりサル群れにも遭遇する。

カラマツ林の中にある湧水にはテンが水を飲み、脇のヌタ場にはニホンジカ、イノシシなどがやってきて泥浴びをする。我々がシカ食害調査のために、このヌタ場に設置したセンサーカメラが多様な野生動物の姿を捉えている。秋になるとシバグリの高木に数え切れない程のクマ棚ができる。冬眠に備えて、たらふく野生のクマの実を食べるのだろう。御前山直下の避難小屋から数メートル、登山道の脇のシバグリの木にクマ棚があったのには驚いた。要注意。

両生類では、かつて栃寄沢上流には絶滅が危惧されているトウキョウサンショウウオが棲息していたが、最近では残念ながら見かけられない。しかし、下流域ではタコガエルやミヤマヒキガエルなどを多く目にする事ができる。

「ツーツーピー」と啼く留鳥のヤマガラ姿を見ながらの山歩きは季節を問わず癒される。

ヌタ場のセンサーカメラが捉えたカモシカ・クマ・雄ジカ



カタクリの一生

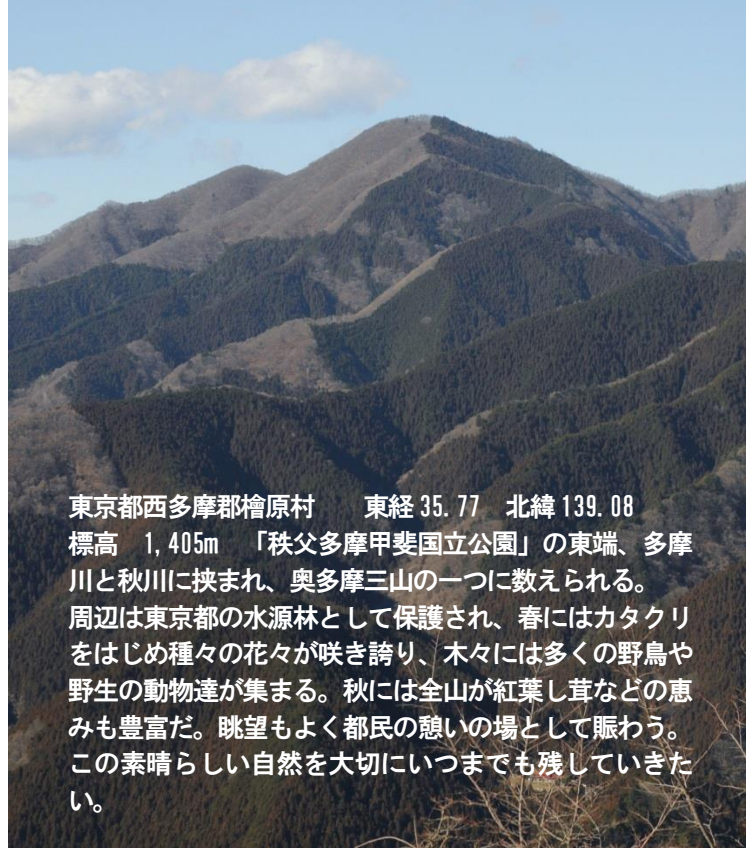
御前山は、カタクリ(ユリ科カタクリ属に属する多年草)の群落で知られている。都岳連自然保護委員会は毎年春、カタクリ保護のためのパトロールを20年続けている。

カタクリは早春の陽光を受け、木々が葉を茂らせて覆い被さるまでの2～3ヶ月の間に1年分の栄養を地下の鱗茎に蓄える。5月、その年実ったタネが土に落ちる。タネにはエライオソームというアリの好きな物質が含まれ、アリによって効率よくばらまかれる。そして1年地下で眠っていたタネは翌年1枚葉を出し栄養を鱗茎に蓄えてまた地下で休眠する。これを繰り返して7年目頃に漸く2枚葉を出し初めての花を咲かせる。新しく栄養を蓄えた鱗茎は、旧鱗茎の下に作られるので、結果的に年々少しずつ地下深く潜っていく。カタクリはその後も春に花を咲かせ次の命を繋ぎ、15～17年位でその寿命を終るといふ。

陽を浴び満開になった花は、6枚の花弁が反り返って開き、その中に3分岐した柱頭のメシベと6本のオシベがある。その奥には蜜を貯める仕掛けがあり、周辺にまるで仏座のような不思議な模様(蜜標:ガイドマーク)をつけて、訪れる昆虫達を誘導している。



奥多摩 御前山 Gozen Yama



東京都西多摩郡檜原村 東経 35.77 北緯 139.08
標高 1,405m 「秩父多摩甲斐国立公園」の東端、多摩川と秋川に挟まれ、奥多摩三山の一つに数えられる。周辺は東京都の水源地として保護され、春にはカタクリをはじめ種々の花々が咲き誇り、木々には多くの野鳥や野生の動物達が集まる。秋には全山が紅葉し茸などの恵みも豊富だ。眺望もよく都民の憩いの場として賑わう。この素晴らしい自然を大切にいつまでも残していきたい。

御前山の成り立ちと地質

奥多摩の山は、深い溪谷と山頂付近は緩やかな地形が目立つ。奥多摩駅近くの川床面は標高約300m位だが、町を囲む山々は1000～1400mで激しい隆起と河川浸食がみえる。御前山は秩父・多摩

地層の一部で、中生代2億～6500万年前に太平洋プレート上に堆積し、付加体としてアジア大陸に押し込んだ岩石が中心である。2000万年前頃から大陸を離れ日本海が生まれ日本列島が形成された。五日市を中心に太平洋側から秩父方面に向かって南西から北西に向かって扇子を半分広げたように、新しい地層から古い地層が波打っている。御前山はこの間に位置し、珊瑚礁や放射虫など海の生物などが堆積した、石灰岩や固いチャートという岩、塩基性火山岩等が惣岳山～御前山の先までレンズ状に延びて分布している。周辺からは遠い昔の生物化石も発見され、地球の歴史を物語っている。またこれらの岩石は植生にも影響を与えているようである。人々の歴史を語る上でも貴重な地域で、藤原から小河内峠へ上る登山道の途中900m付近には、8000年前の縄文時代の縦穴住居跡「中の平遺跡」が発掘されている。(地質断面図は、地質調査所 五日市地域図を参照)

御前山の関係連絡先

1. 東京都奥多摩ビジターセンター 0428-83-2037
2. 奥多摩都民の森(体験の森)管理事務所 0428-83-3631
3. 奥多摩山岳救助隊 青梅警察署 0428-22-0110
4. 五日市警察署 042-595-0110
5. 西東京バス株式会社 氷川車庫(奥多摩駅前) 0428-83-2126
五日市営業所(武蔵五日市駅前) 042-596-1611
6. 奥多摩観光協会 0428-83-2152

都岳連自然保護委員会の主な活動

- 春・秋に自然観察会を実施
- 御前山カタクリパトロール 御前山水質調査
- クリーンキャンペーンを実施
- 地形・地質(ジオ)観察会を実施
- 雲取山調査山行(トイレ事情調査)
- 日本山岳協会自然保護指導員育成講習会の開催
- 日本山岳協会の加盟団体として各方面で協力・協賛
- 都岳連主催行事に協力

自然を尊び 自然を愛し 自然に親しもう
自然に学び 自然の調和を そこなわないようにしよう
美しい自然 大切な自然を 末永く子孫に伝えよう

発行 公益社団法人 東京都山岳連盟 自然保護委員会

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-32 福原ビル 301
Tel.03-3526-2550 / Fax.03-3526-2551 (月～金 13:00～17:00)
<http://mt-shizen.org/>

安全登山のルール

1. 登山前のチェック
 - (1) 体調は万全か 寝不足・疲れ・不摂生は? 日頃から体を鍛える。
 - (2) 計画は万全? どの山にどのコースで登るか。シミュレーションし自分の技量に応じた計画を立てよう。
 - (3) 忘れ物は? 忘れてならない必須装備は 1)レインウエア(雨具・防寒具) 2)地図とコンパス 3)日が暮れても歩けるヘッドランプ。食料(水・弁当・行動・非常食)、ザック、登山靴は登山の基本。
 - (4) 登山届は、準備したことを計画書にまとめ提出箱や交番に必ず提出。自宅にも置く。
 2. 登山中の危険 単独登山は避け、次のような危険に常に注意。
 - (1) 道迷い 道標や印に注意、不安を感じたら直ちに地図で確認。
 - (2) 疲労 熱中症や脱水、雨や雪の中では低体温や凍傷。疲労は、判断力や行動力低下につながる。
 - (3) 自然からの脅威 落雷、落石、鉄砲水、雪崩など。クマやハチなどの危険も。正しい状況判断で行動する。
 3. 自然保護のために
 - (1) ゴミは必ず持ち帰る。
 - (2) トイレ 排泄物は自然を汚す。携帯トイレを持参しよう。*注
 - (3) 登山・ハイキングは野生動物生活圏への闖入と考えよう。病気や細菌を持ち込まない・持ち出さない。餌やりも厳禁。
 - (4) 登山道を外れない 小さな踏み跡も大勢通ると拡大し植生を破壊。ストックにはプロテクターを付ける。
- *注 携帯トイレによる尿尿持ち帰り運動を始めたのは御前山が最初。その後利尻・立山・早池峰山と全国に広がった。

